

(様式8)

公共事業終了箇所評価調書

評価確定日(平成 21年9月30日)

事業コード	H21-建-終-5		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	国道道路改築費		部 局 課 室 名	建設交通部 道路課
事業種別	1次改築		班 名	道路建設班 (tel)018-860-2493
路線名等	国道341号		担 当 課 長 名	小嶋 宣英
箇所名	仙北市田沢湖鎧畑(鎧畑拡幅)		担 当 者 名	主幹(兼)班長 遠田 久雄
総合計画との 関連	政策コード	13	政 策 名	産業を支える交通基盤の整備
	施策コード	02	施 策 名	地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備
	指標コード	01	施策目標(指標)名	県管理国道の改良率(累計)

1. 事業の概要

事業の 背景及び 目的	○国道341号は、鹿角市と由利本荘市を連絡する幹線道路で、沿線には八幡平、玉川温泉、玉川ダム、田沢湖、田沢湖高原等の主要な観光拠点が存在し、観光道路の機能も有する。 当該工区は、幅員狭小、線形不良の狭隘区間を解消し、安全で円滑な交通の確保を図るとともに、観光周遊道路としての機能向上を目的とした延長3.8kmの2車線道路である。					
事業期間	前回(H16年) H2年 ~ H18年 終了 H2年 ~ H18年	総事業費	前回(H16年) 92.8億円 終了 94.6億円	国庫補助率	5.5/10	
事業規模	前回(H16年) 延長L=3,800m、幅員W=6.5(12.0)m 終了 延長L=3,800m、幅員W=6.5(12.0)m					
事業効果の 要因変化及び 発現状況		前回評価計画①	最終②	増減②-①	理由	
	事業費	9,276,910	9,460,000	183,090		
	経内 費 用 内 訳	工事	7,969,238	8,144,811	175,573	旧道処理・旧橋解体、防雪施工の増額による
		用補	274,962	264,346	-10,616	精算による
		その他	1,032,710	1,050,843	18,133	防雪施設(雪崩予防)施設の調査設計など
	事業内容	調査・設計 改良工 橋梁工 舗装工	調査・設計 改良工 橋梁工 舗装工			
	コスト・効果対比較		費用便益変化の主な要因(前回評価→終了)			
○最終コスト 終了C②/前回評価C①=(1.02)		【便益】 変化なし。				
○費用便益 前回評価B/C=(1.5) ↓ 終了B/C=(1.3)		【費用】 旧道処理や旧橋解体、雪崩予防施設の設置により工事費が増額となった。				
目標 達成率	指標名	県管理国道改良率(累計)				
	指標式	改良率(改良済延長/路線実延長)				
	指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標	低減指標の有無	○有 ●無		
	目標値a	91.4%	データ等の出典	あきた21総合計画H19目標 H19道路現況調書		
	実績値b	92.7%				
	達成率b/a	101.4%	把握の時期	平成20年4月		
指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法 ○指標を設定することができなかった理由及び把握方法と成果 ※データの出典含む						
自然環境の 変化	のり面の緑化により、周辺自然環境への調和を図っている。					
社会経済 情勢の変化	H17. 9. 20旧田沢湖町が周辺の町村と合併して仙北市となる。					
事業終了後の 問題点及び管 理・利用状況	地域住民及び観光協会等へのアンケート調査の結果、頻度としては回答者の約3割が月に数回利用しており、目的としては約5割が観光・レジャーの産業道路として利用されている。また、回答者の約6割以上が移動時間の短縮、走行の安全性が確保されたと感じている。					

住民満足度等の状況 (事業終了後)	①満足度を把握した対象 ● 受益者 ○ 一般県民 (時期:平成21年 9月) ②満足度把握の方法 ● アンケート調査 ○ 各種委員会及び審議会 ○ ヒアリング ○ インターネット ○ その他の方法 (具体的に) ③満足度の状況 地域住民や観光協会等から、目的地等への移動時間の短縮や、走行の安全が確保された等の高い満足度が得られた。
上位計画での位置付け	○あきた21総合計画における施策「地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備」を支援する事業
関連プロジェクト等	○玉川温泉地区への冬期間P&BR(パークアンドバスライド)事業(H11~)
前回評価結果等	●選定または継続 ○改善 ○見直し ○保留又は中止
	①指摘事項 ・特になし ②指摘事項への対応 ・特になし

2. 所管課の自己評価

観点	評価の内容(特記事項)	評価結果
有効性	①住民満足度の状況 ●A ○B ○C アンケート調査結果から、約4割の回答者から安全性が向上したという回答だった。さらに約8割が事業に満足、概ね満足しているとの回答だった。	●A ○B ○C
	②事業の効果 ●A 達成率100%以上 ○B 達成率80%以上100%未満 ○C 達成率80%未満 当該事業は計画通り進捗し、目標を達成している。	
効率性	①事業の経済性の妥当性 ●A ○B ○C B/Cが1.3であり、経済性の妥当性が高い。	●A ○B ○C
	②コスト縮減の状況 ○A 縮減率20%以上 ○B 縮減率20%未満 ○C 縮減なし	
総合評価	●A (妥当性が高い) ○B (概ね妥当である) ○C (妥当性が低い) 計画に沿って着実に進捗し、地域住民の利便性の向上や交通安全の確保が図られており、住民満足度等からも成果が認められることから、事業は妥当である。	

3. 評価結果の同種事業への反映状況等(対応方針)

事業開始前の予備調査や調査設計において現場の掌握に努め、実施・詳細設計段階において適正な事業費の総額を把握するとともに、工法や廃材の再生利用などコスト縮減に積極的に取り組み、効率的な事業施工に努める。
--

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

○総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	A
B (概ね妥当である)	「A」判定、「C」判定以外の場合	
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合	